

**製品名: DMGDH ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10036**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                       |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,IHC,ICC/IF,ELISA                                |
| 反応性    | ヒト、ラット、マウス   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | 未修正  |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。  |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |   |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量  | 97kDa   |

**抗原情報**

|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | DMGDH   |
| 別名           | DMGDH; Dimethylglycine dehydrogenase; mitochondrial; ME2GLYDH |
| 遺伝子 ID       | 29958.0   |
| SwissProt ID | Q9UI17  |
| 免疫原          | 抗血清はヒト DMGDH 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 817-866               |

**背景**

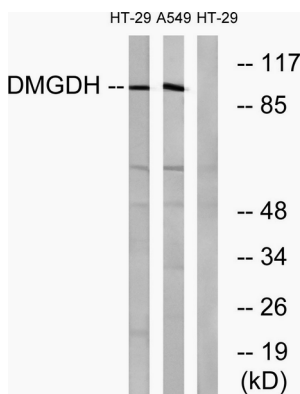
この遺伝子は、コリンの分解に関与する酵素をコードしており、ジメチルグリシンの酸化的脱メチル化を触媒してサルコシンを生成します。この酵素はミトコンドリアマトリックス中に単量体として存在し、フラビンアデニンジヌクレオチドと葉酸を補酵素として

利用します。この遺伝子の変異は、魚のような体臭、慢性的な筋肉疲労、血清中の筋肉型クレアチンキナーゼの高値を特徴とするジメチルグリシン脱水素酵素欠損症を引き起こします。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013年7月],触媒活性: N,N-ジメチルグリシン + 受容体 + H(2)O = サルコシン + ホルムアルデヒド + 還元型受容体。補因子: モノマーあたり1つのFADを共有結合する。疾患: DMGDHの欠陥は、DMGDH欠損症 (DMGDHD) [MIM:605850]の原因である。DMGDHDは、魚臭、筋肉疲労、血清クレアチンキナーゼの上昇を特徴とする疾患である。生化学的には、血清および尿中のN,N-ジメチルグリシン (DMG) の増加を特徴とする。経路: アミンおよびポリアミンの分解; ベタイン分解; ベタインからサルコシン: ステップ 2/2。類似性: gcvTファミリーに属する。サブユニット: モノマー。、

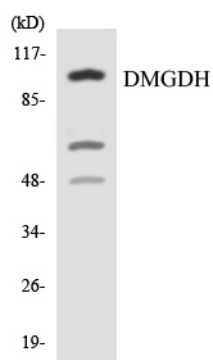
## 研究分野

グリシン、セリンおよびトレオニンの代謝。

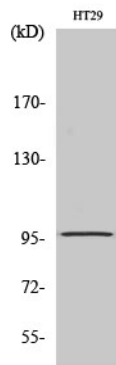
## 画像データ



DMGDH抗体を用いたHT-29細胞およびA549細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



DMGDH抗体を使用したHeLa細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



DMGDH ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析